

児玉康比古 議員

(一問一答方式)



- ①ハゼの細道プロジェクトについて
- ②防犯灯について
- ③コミュニティセンターについて

合併20周年記念事業、ハゼの細道プロジェクトについて

問 ハゼノキは体質によりハゼアレルギーの心配もあるが、植栽しようとする目的とその活用、またどのように推進していくのか。

答 当市は江戸時代の後期から明治期にかけて木蠟の生産地として知られ、ハゼノキの実から得られる天然の蠟は、主に和蠟燭や石けん、化粧品などの原料として使われるなど木蠟との歴史的つながりがあります。こうした大洲の伝統文化を背景にハゼの細道プロジェクトと銘を打ち、里山林の水源涵養などの公益的機能や遊休農地の解消等による景観保全を促す有用広葉樹としての整備、農林家の収益増と旧産業の再活性化を目的として、今後ハゼノキ栽培を推進するものです。

昨年度より大洲農業高校に協力をいただき、ハゼノキの接ぎ木によるクローン苗木の育成を開始したところであり、それらを試験的に植栽し、適地や技術について検討を進めています。使用するハゼノキは精蠟用に品種改良されたもので、樹液を高密度に浴びない限り、かぶれは出現しないと言われていますが、市民への被害を考慮した管理も検討していきます。

また、苗木の育成については、大洲農業高校で一定期間の養生の後に、市の直営事業による育成及び移植を計画しており、その年の活着率によりますが、5年程度で市民の協力を得られる準備が整うものと考えています。

商店街街路灯について

問 肱南・肱北の商店街は、多くの高校生が通学路として利用しているが、空き店舗も多く冬場の帰宅時間には暗くなっている。商店街の中には店舗ではなく自宅利用も多くなっていることから、商店街に対し電気代の一部でも大洲市が補助すべきと提案す

るが、いかがか。

答 商店街が設置する街路灯については、夜間における商店街の販売促進のための環境整備であるとともに、市民の安全な生活環境にも寄与しており、地域の財産であると考えられます。現在設置されている街路灯の中には、老朽化が進み、危険な状態になっているものも存在するため、今年度から撤去が必要な街路灯については、その撤去事業に係る補助金を創設したところ です。この商店街街路灯撤去事業補助金を活用いただくことで、商店街の負担を少しでも抑えることができると考えています。

商店街街路灯への電気代補助については、今のところ考えていませんが、維持管理が困難な場合の対応として街路灯の維持管理を区に移行した商店街もあります。区や自治会が所有している場合は、防犯灯設置等補助金の活用が可能になり、設置に係る費用だけでなく消費電力の少ないLEDへの改修も補助対象になりますので、区、自治会との話し合いについても検討をお願いしたいと考えています。

公民館や学校体育施設へのスマートロック導入について

問 昨年8月から公民館1か所、また学校の体育館では4か所でスマートロックの実証実験が行われているが、令和6年度からスマートロック等のデジタル技術を導入されるコミュニティ施設や学校体育施設はどれくらいあるのか。

答 公民館や体育施設のうち、スマートロックを導入する施設については、今年度各地域で実施した地域自治組織再編方針（案）の説明会において自治会や公民館の関係者から、安全面に対する不安や緊急事態での対応が必要であるなどの意見を伺っています。このことから、スマートロックの導入の判断は地域の実情に応じた管理体制が構築できるよう、実証実験の検証結果を踏まえ、コミュニティセンターの運営や体育施設の鍵の管理をお願いする自治会とも相談しながら導入を進めていきたいと考えており、現時点での箇所数は未定です。

なお、現在コミュニティセンターや学校体育施設の施設管理にデジタル技術を活用しようと検討しているものは、予約状況等を管理するための施設予約システムとそれに付随して施設の鍵を管理するスマートロックの2種類となっています。